



今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 58 《角田耕紀 院長》
- ◆看護師さんのページ NO. 38 《崎美樹 看護部長》
- ◆研修医のページ NO. 41 《木村綾乃 先生》
- ◆医療従事者紹介 《医療クラーク 田中加奈子氏》
- ◆平成 27 年度しまね初期臨床研修医合同研修会
- ◆平成 27 年度しまね研修ナビ



NO. 58

飯南町立飯南病院

院長 角田 耕紀



飯南町は島根
 県中南部、広島県との県境に位置し、
 周囲を1000メートル前後の琴引山
 や大万木山などに囲まれ、町の中心部
 の標高が約450メートルの県下でも
 代表的な高原地帯です。美しい森と清
 らかな水に彩られた自然の恵み、癒し
 あふれる地域で、「しまねっこ」の「や
 まのべっそう」もありますよ。飯南町
 ご当地ゆるキャラの「いっくにゃん」も
 頑張っています。皆
 さんご存知でした
 か？



飯南病院は、このような環境のもと、
 住民の皆様に愛され信頼される医療機
 関を目指すことを基本理念とし、保
 健・医療・介護・福祉の連携、予防医
 療、救急医療、高齢者医療、在宅療養
 支援の充実を基本方針としています。
 具体的な取組みとして、飯南町では平
 成22年4月『生きがい村推進センター』
 を発足させ、保健福祉センターとの連

携のもと、町内各施設とも情報共有や
 意見交換をしています。

飯南町病院事業として、飯南病院
 (常勤医師5名・うち歯科医師1名)、
 来島診療所(常勤医師1名)をはじめ、
 出張診療所を2施設有し、管理・運営
 をしています。飯南病院の入院病床数
 は48床で、内科、整形外科は主として
 常勤医師により、眼科、小児科、産婦
 人科、心療内科などは島根大学や島根
 県等からの診療支援をいただきながら
 診療を行っています。また、救急医療
 は最重要課題と位置づけ、マンパワー
 は十分ではありませんが、皆で協力し
 ながら24時間365日の体制を維持
 しています。

日々の診療では、CTをはじめ、各
 種内視鏡、超音波装置を揃え、総合医
 が中心となって予防医療、一次医療、
 二次医療を担っています。脳卒中、循
 環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、
 内分泌疾患、感染症、悪性腫瘍、外傷
 なども含め、健康を脅かす病態は様々
 ですし、それぞれの人生のステージで
 の社会的背景や個々の価値観も多様化
 しています。総合医がそれぞれの守備
 範囲を広げスキルを高めていくこと、
 サブスペシャリティーをもちながら仕
 事ができること、コミュニケーション
 能力を高めながら患者さん、家族を支
 えていくことが、医療を受ける住民の
 QOLの向上につながるということを
 日々、意識・実感できる環境です。そ

ういった中で、当院ではできるだけ医
 療の地域完結率を上げていくように努
 力しています。具体的には、医師を含
 めて看護師や薬剤師、検査技師、理学
 療法士、事務職など多職種でチームを
 形成し、個々のスキルアップを支援し
 ていくとともに横断的な連携を図るこ
 とができるよう病院として取組み始め
 ました。

しかしながら、時として専門的な検
 査が必要な場合や高次医療が必要な場
 合もあります。その際には高次医療機
 関と連携をとり適切な検査・治療を受
 けていただけるよう、コーディネートタ
 ーの役割を果たす必要があります、総合
 な視点で判断できるバランス感覚も求
 められています。



さて、病院では4月から地域包括ケ
 ア病床の運用を開
 始しました。地域
 の皆様の声を聴き
 ながら、病院と在
 宅との懸け橋とし
 て訪問診療、訪問
 看護ステーション
 をはじめ、関係す
 る医療資源との連
 携を密にし、この
 地域のニーズに合
 わせた実践的な病
 床機能が果たして
 いけるようにも努
 力していきたいと



地域社会で医療者が果たすべき役割を意識しながら務めていくことは、とてもやりがいがあります。自然豊かな飯南町でいっしょに働いてみませんか。興味・関心のあ

る方は是非一度、飯南町に遊びに来てください。

思います。

最後に、当院は若手医師や医学生等の教育にも力を入れていく必要があると考えています。今年度から初期研修医の地域医療研修機関として、また家庭医療後期研修プログラムの研修機関として臨床研修病院等と連携・協力させていただいています。地域の特性を活かし、病院、診療所、各施設での実習だけではなく、飯南町の自然体験を取り入れたりしながら、地域における医療の役割に触れて何かを感じてもら

看護師さんのページ

NO. 38

隠岐広域連合立隠岐病院

看護部長 崎 美樹



当院は、平成25年に世界ジオパークに認定された「日本海に浮かぶ宝島」隠岐諸島の島後にある最も大きな医療機関として、地域医療拠点病院や災害拠点病院にも指定されている地域の中核病院です。

平成24年5月に島民の念願でもあった新病院が開院し、「この島に住む、安心の医療」を病院理念に掲げ、安心・安全な医療の提供と患者サービスの向上に向け職員一丸となって尽力しています。新病院の屋上にはヘリポートも整備され、年間90件あまりある緊急搬送時の時間短縮はもとより、搬送直前まで治療ができるなど救急医療の充実という面で大きな効果が得られています。

部門職員は138名となっております。認定看護師も2分野（皮膚・排泄ケア、感染管理）2名がそれぞれの分野で力を発揮しています。新人看護師は毎年1〜3名程度が入職しますが、当院は急性期看護から終末期看護、高齢患者の看護など幅広い分野での知識・技術が必要であり、複雑な業務のなか病棟師長をはじめプリセプター、新人教育担当委員が中心となり、指導内容も工夫を凝らしながら個々に合わせた指導に取り組んでおり、新人看護師の定着化が図られています。ときには、指導が思うように進まない場面もあります。が、指導者や新人看護師の努力もあり、1年後の看護観の発表ではその成長した姿に感動させられています。



離島、中山間地などへき地の医療機関では、特に医師をはじめとした医療従事者不足が深刻な問題として続いております。当院でも例外ではなく、平成18年には全国的に報道された産婦人科医師不在により、島で分娩ができないこともありました。そのような中、院内助産システムを立ち上げ、分娩や助産師外来を実施するなどの対応をしますが、慢性的な看護師不足に加え助産師の世代交代の時期を迎え確保対策が大きな課題となっております。その対策のひとつとして実施している中高生の看護師体験、助産師体験、また看護学生の母性看護実習などは、必ず将来につながると思っていてがんばっています。私たちは逆に学生からフレッシュな刺激をもらっています。7月14日には島根県立大学と隠岐の島町が連携協力協定を結び、出雲キャンパスとの連携には当院が積極的に対応していくこととしています。



島根大学医学部附属病院

2年目研修医 木村 綾乃



盛夏の候、皆様にはますますご壮健のこととお喜び申し上げます。島根大学附属病院にて初期研修を行な

っております木村綾乃と申します。私は島根県で生まれ育ちました。慣れ親しんだ土地で研修したいと思い島根大学を研修先を選びました。自分の性格も考えゆつくりこつこつ励もうと2年間大学コースを選択し、初期研修の1年が過ぎ2年次研修医となりました。

大学病院での研修の特徴として高い専門性があります。学生の頃は専門性と聞くと敷居が高く近寄りがたいイメージでしたが、実際に研修を始めてみるとローマは一日にしてならずという言葉があるように専門性を築く上にはたくさんさんの歴史・基礎研究・先生方の経験から成り立っていることを実感し、症例ひとつひとつから新しい事を知る楽しさに触れています。また1年次の頃からローテートする診療科での学会参加や発表の機会にも恵まれました。臨床だけでなく考察のポイント、抄録・スライドのテニヲハといった細

かい所まで指導医、講座の先生方にご指導頂き何とか当日の発表を終えますが、指導に応えきれず反省ばかりです。他の医療機関で働く先生方の発表、デイスカッションを聞き、たくさん刺激を受けています。

また島根大学の他に東京医科歯科大学での救急研修、津和野共存病院での地域医療研修を終えました。慣れない環境に一人で行くのはとても不安でしたが行く先々で同期、指導医、スタッフの方に恵まれ充実し楽しく研修ができました。所違えば患者さんの年齢層、経験できる症例、細かなシステムの違いはありますが、どこへ行っても出会った患者さんにとつて何が一番良いのかを考え、実現するために指導医、同期、看護師さん、多くのスタッフと話合うという点は共通していました。医師の幅広い視点、看護師さんの患者さん目線、ソーシャルワーカー他職種との連携で医療は成り立ち、そこで初めて患者さんのニーズに答えられる事に気づきました。医学知識だけではなく社会のシステム、法律へも関心を広げるきっかけとなりました。

1年次の頃は2年次の先輩方が雲の上のような存在でした。自分は成長できているのかと不安に思う事もありますが、少しでも地域の皆様の役に立てるようこれからもこつこつ頑張ります。



医療従事者紹介

国立病院機構 浜田医療センター

医療クラークリーダー 田中 加奈子



【医師事務作業補助者とは？】
医師が行う事務的な業務をサポートする職種です。

当院では「医療クラーク」と称していますが、その呼称は病院によって様々で、医療秘書、MA（メディカルアシスタント）などと呼ばれています。診療報酬の配置加算の追い風を受けて、県内の医療機関においても配置が進んでおり、今年1月の県の調査では、県内の52病院中32病院に266名が配置されています。

【浜田医療センターでの活躍】
ご存知の通り、島根県西部では医師不足が深刻化しており、また医師確保もなかなか厳しい状況のようです。

当院においても、常勤医師数が減っている診療科や、常勤医師が不在になり、非常勤医師による診療体制になっている診療科があります。

そういった中では、医師に「疲弊感を感じさせず」、「モチベーションを保ち」、「パフォーマンスを維持・向上してもらう」ことが必要です。

当院では現在38名の医療クラークが在籍しており（常勤医師数は46名）、

各々の医師の色に染まった診療科専属の医療クラークのサポートによって、医師の診療環境の改善がなされています。医師からは「医療クラークがいないと仕事成り立たない！」「本当に助かっている」との評価を多く得ています。



このように、医師の疲弊感を取り除くことで、離職の抑制、医師確保（非常勤医師を含む）、病院機能縮小の抑制につながっています。このことから、医療過疎地である島根県西部において、医療クラークは、医師の業務を単に軽減するだけでなく、地域の中核病院としての機能を維持させる役割も担っており、地域医療にも貢献できていると自負しています。

【チーム医療の潤滑剤】

医療クラークは活用次第で医師支援、医師確保の面で間違いなく役立つ職種です。また、看護師など他職種の本来業務専念にも大きく関わってきます。さらに医療クラークはコミュニケーション能力に優れた人材が多く、必ずやチーム医療の潤滑剤となりうる職種です。

【島根県の医療クラーク向上作戦！】

この職種の歴史は浅く、導入・運用

に苦慮している医療機関もあり、また実務者も不安や問題点を抱えているように見受けられます。そんな中、昨年度、島根大学医学部地域医療支援学講座としまね地域医療支援センターの主催により「第1回医師事務作業補助者研修会」が開催されました。約50名の参加があり、短時間ながら初めて交流を持つことができました。今後も引き続き、医療クラークの質向上をめざしたいと考えています。

島根県は高齢化、医師不足の問題を抱えています。医療クラークにとっては恰好の活躍の場です。今後も皆様のご理解とご協力を得ながら、島根県の医療クラークの発展に貢献できればと思いますので、あたたかいご支援をよろしく願います。

平成27年度 しまね初期臨床研修医合同研修会

4月3日、4日、ホテル宍道湖にて平成27年度しまね初期臨床研修医合同研修会を開催しました。昨年に引き続き、島根県医師会と共同開催し、今年で2回目となりました。

この研修会は、島根県内で初期臨床研修を開始する60名の研修医に対し、社会人として、医師としての自覚を促し、同期としての連帯感を醸成し、初期研修の魅力アップと研修医定着を図るものです。

1日目は「高齢化社会と医療制度改革」、「社会人（人間形成）」として必要なこと、「メンタルヘルスについて」について、3名の講師から講演して頂きました。この中で、(株)てっぺんの大嶋啓介氏は、人の能力や可能性に気づき、努力し夢を追いかけ続け、とにかく仲間を大事にすることが重要と講演されました。夜は、オールしまね大交流会を開催し、ドジョウ掬いのアトラクションもあり、和気藹々とした雰囲気の中、研修医同士の交流を深めることができました。



2日目は、ささえあい医療人権センター ICOMLの山口育子理事長が患者の立場から「これからの医師に患者から望むこと」、聖路国際病院の福井次矢院長は「医師としての使命感、プロフェSSIONナリズム」について講演頂きました。その後、各グループに分かれ、『将来、どんな医師になりたいか』をテーマにディスカッションしました。

この2日間で、参加された皆様は、社会人として医師として必要なことを学ばれ、交流を深めて多くの仲間ができたことと思います。

【しまね地域医療支援センター 勝部】

平成27年度 しまね研修ナビ



6月6日、島根大学医学部看護学科棟にて「平成27年度しまね研修ナビ」を開催し、県内の臨床研修病院等が一堂に会して、医学生向けに初期臨床研修等の紹介を行いました。

この「研修ナビ」には、6年生だけでなく、5年生以下も10数名の参加があったほか、県外からも参加があり、将来の進路についての関心の高さが窺えました。

説明会では、マッチングシステムについての説明のほか、先輩研修医からのメッセージがあり、これから自分たちが研修する病院の選び方を旅行に例えて説明され、とてもわかりやすい内容でした。

また、参加病院の方々による工夫を凝らしたプレゼンテーションがありました。

説明会の後は、各ブースに分かれて個別相談を行いました。多くの医学生が複数のブースを訪れ、どのブースでも医学生からの質問に対して病院の医師の方々が熱心に答えておられる姿が見られました。

この説明会を通じて、少しでも多くの医学生が県内の病院で研修してくれたいことを願っています。

【しまね地域医療支援センター 水津】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室
TEL 0852-22-5693 FAX 0852-22-6040
E-Mail iryoud@pref.shimane.lg.jp
ホームページ：www.pref.shimane.lg.jp/kyokai 島根の医師確保対策

